

On your side

1

令和 5 年度（2023 年度）
10 年経験者研修 開講にあたって
（中堅教諭等資質向上研修）

<https://toyono-jinikyo.com/>

豊能地区では、「子どもとともに学び続ける教職員」をめざす教職員像とし、法定研修を実施しています。今年度は小学校教諭 97 名、中学校教諭 47 名、養護教諭 5 名、合わせて 149 名の先生方が 10 年経験者研修を受講されています。豊能地区の 3 市 2 町合同でおこなう「共通研修」では、研修から学んだことや考えたことをどのように自校の取り組みにつなげていくかをグループで話し合うなど、お互いに交流することを大切にしています。この研修通信“On your side”もみなさんの振り返りシートの記述をもとに作成しています。研修内容を振り返り、学びを深め、広げるきっかけにしたいだけたらと思います。

第 1 回は、Web 開催（オンデマンド型）で、兵庫教育大学大学院特任教授の浅野良一先生に「学校組織マネジメント」をテーマに、演習を交えて動画で講義をしていただきました。教員として 10 年目がどのような時期であるか、キャリアステージにおける役割や課題についてお話していただきました。また、演習「SWOT 分析」では、自校を多面的に捉え直し、「あるもの活かし」の見方で強みを考えていくことで、学校組織を構築していく一員としての自身の役割を学びました。



～ 振り返りシートより ～

これまでの自分は、授業力向上、授業改善を中心に自己研鑽をしてきました。現在、組織の中の一員として、自分がどのような位置にいて、求められるものが、多岐にわたることがよくわかりました。さまざまな課題があると感じる一方で、それをプラスの思考でとらえ、強みに変えていくことが、今の教育現場には必要なのだと再認識できました。子どもたちの将来を担う理想の教師像を追い求めることはもちろん、ミドルリーダーとして若手を育成することに関しても意識を持って、職務に当たりたいと感じました。まずは、自分のビジョンを、この研修を通して、確立していきたいと思います。今回の講義で、教職員を取り巻く環境やミドルリーダーとしての役割について改めて考えることができました。

ご自身のこれまでの経験や、今の学校での取り組み、これからのキャリアなど、現状と照らし合わせながら受講されたようすが伝わってきました。今後も年間の研修受講を通じてミドルリーダーとしての役割、「自分ができること」について考えていきましょう。



第 1 回の研修動画の中で、10 年経験者研修についての年間の見通しや、提出書類についての説明をおこないました。**校外研修**の実施は、豊能地区の 3 市 2 町で合同実施をする【共通研修】（全 5 回）と、所属市町実施研修＋選択研修（全 6 回）です。また、所属校における**校内研修**も、講義やコーチング、管理職の先生などからの指導・助言を受けながら実施して、それぞれの機会がみなさんのこれからのキャリアに役立つものであってほしいと願っています。今後も研修の手引や豊能地区人事協議会の Web ページを活用しながら、年間の受講を計画的に進めていきましょう。

Webアップ していきま

各市町実施の「相互交流研修」を豊能地区教職員人事協議会のホームページに掲載し、随時更新しています。実施日時・方法・場所等を確認してください。
※申し込みは、各市町教育委員会(教育センター)の案内に従ってください。

6月上旬に実施した第2回は、小学校班・中学校班での実施でした。初任者との合同実施研修（コラボ研修）にむけて、自分の初任期の授業や先輩からの助言について振り返ったり、授業づくりで大切にしてきたことをグループで交流したりしながら授業改善について考えました。また、人材育成の手法であるメンタリングやコーチングの講義をもとにミドルリーダーとしての役割についても交流しました。

～ 振り返りシートより ～

自分も周りの先輩教員に教えてもらい、助けてもらい、育ててもらい、今があるなと思ひ返しました。自分は今、そのように後輩たちに関わっているのか？職場のみんなと協力できているのか？謙虚さを忘れていないか？…初心に戻って、職場で頑張りたいと思います。教職員の力が大きくなれば、子どもたちを取り巻く力もパワーアップできるかなと思います。ほめてもらった言葉は、今でも励みになっているんだなと実感しました。

経験の少ない教職員が増えてきているので、できるだけコミュニケーションを取っていきたくて考えていました。授業や指導に関することは伝えにくいと思っていましたが、自分の経験も振り返り、どんな声かけが自分の成長につながったか思い出すことができました。KSQを大事に、経験年数関係なく一緒に学校づくりができればいいなと思います。

コーチングマインドは生徒だけでなく、大人同士(同僚や保護者)にも活かせると思うので意識していきたい。

指導、助言をする立場ということで、何か言わなきゃいけない！と思っていましたが、まずは、相手の表情や声のトーンなど、相手の様子を見るということを大切に、話を聞いていきたいと思いました。

傾聴や承認、共感といったキーワードは初任者研修の講義でも出てきましたが、それは担任としての子どもの理解や学級づくりの講義でのことでした。10年経験者研修を受講するみなさんには、これまで十分に培ってきたであろう指導スキルや経験を、これからは経験の少ない教員の育成を含め、学校全体に還元していくことを期待しています。初任者は、これからますます職場にも慣れ、確実に視野が広がっていくことでしょう。それと同時に悩みや不安も多くなることでしょう。そんなときに「メンター」としてというより、「元・初任者」として寄り添える先輩でいてほしいと思います。



初任者の「あるある」を出している時、自分が初任の時を思い出すと、今、現場にいる若手の先生達も同じ思いをしているのだな、悩むのも当たり前だなと改めて感じました。悩みを一緒に共有、共感、解決していけたらなと思いました。

指導・助言するにあたって、相手がどんな思いで授業を計画し、取り組んでいるか、想い・願いを大事にし、アドバイスしたり、解決案を一緒に考えたりできればと思います。コラボ研修で今日学んだことをいかしたいです。

初任者から学ぶことも多くあると思っています。第3回が楽しみです。

初任者の方との研修、ワクワクします。自分も新たな気持ちで学び続けたいです。

コラボ研修にむけて、「初任者授業あるある」というトークテーマで交流をおこないました。自分の初任のころの授業のようすを思い返した人もいたでしょう。交流の中で、当時を振り返ることを、先輩として（メンターとして）の役割や立ち居振る舞いを考えるきっかけにしていたのが印象的でした。「指導・助言をする」ことを不安やプレッシャーに感じるのではなく、自分が後輩（初任者）の頃を思い返しながら、コーチングができるといいですね。

第2回の講義・演習のタイトルは「校内における授業改善を進めるために～子どもの力を引き出す授業づくり～」でした。今後、校内でみなさんがよき助言者・よき理解者として活躍するための「きっかけ」の一つに、前回の講義や交流、8月2日・3日のコラボ研修での指導・助言をしてほしいです。